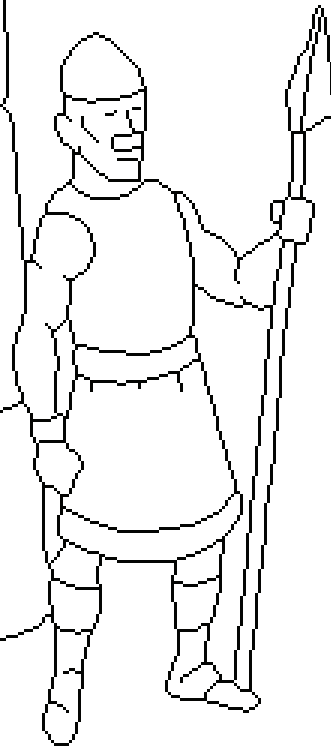


こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします



## ネヘミヤの

おお

## 大いなるかべ



ぶん

文: Edward Hughes

え

絵: Jonathan Hay

かいさくしゃ

改作者: Mary-Anne S.

ほんやくしゃ

翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ

出版社: Bible for Children

[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

BFC

PO Box 3

Winnipeg, MB R3C 2G1

Canada

©2009 Bible for Children, Inc.

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。



ちから くに はなし くに  
ペルシャという とても力のつよい国が、ありました。このお話は、その国が  
せかいじゅう おう  
世界中で、いちばんつよかったころのことです。そこの王さまアルタクセルクセ  
おう せかい いち ちから おう おう  
ス王は、世界で一ばん力のある王さまでした。その王さまに、  
つか たいせつ やくにん ひとり じん  
仕える大切な役人の一人に、ユダヤ人  
な おとこ ひと  
でネヘミヤという名の男の人がいま  
しごと おう た  
したよ。かれの仕事はね、王さまの食  
さき た はい  
べものを先に食べて、「どくが入って  
いないかな？」って、しらべること  
おう  
でした。こうやって、かれは王さ  
まも  
まを守っていたのです。



ある日、ネヘミヤは、とてもかなしそうなかおをして、王さまの前にやってきました。  
「いったい、どうしたんだろう。」王さまは、しんぱいです。ネヘミヤは、  
「王さま、どうか、ずっといつまでも、生きてくださいますように。」と言ってから、  
わけを話しました。「王さま、わたしが、かなしんでいるのは、亡くなったわ

たしの父が、うずめられている町が、あれはててしま  
い、門も焼かれてしまったからなのです。」

ネヘミヤは、エルサレムの町のことを、  
言っているのですね。そこは、  
何年もまえに、たたかいがあり、ほろぼされていました。



おう  
王さまアルタクセルクセスは、たずねました。「ネヘミヤ、それじゃ、どうした  
らいいのかな？」<sup>おう</sup>ネヘミヤは、<sup>おう</sup>王さまにおねがいしました。「王さま、わたしを  
エルサレムへ行かせてください。そうすれば、<sup>まち</sup>町をたてなおすことが、できるの  
です。」<sup>い</sup>「よし、わかった。行くがいい！」アルタクセルクセス王は、よろこん  
で、さんせいしてくれましたよ。それにね、<sup>おう</sup>

おう  
王さまは、ネヘミヤがたびをしているあいだ、

<sup>まも</sup>守ってやろ  
<sup>おも</sup>うと思って、  
<sup>やくにん</sup>そこの役人  
<sup>てがみ</sup>への手紙も、  
<sup>も</sup>持たせました。



おう

王さまはね、それだけじゃなくて、もっともっとネヘミヤを

たす

ひと

か

助けたのですよ。じつは、アサフという人にてがみを書いて、

も

おう

もり

ネヘミヤに持たせました。アサフは、エルサレムの王さまの森を、

ひと

か

かんりする人です。そのてがみには、こう書かれていました。

まち

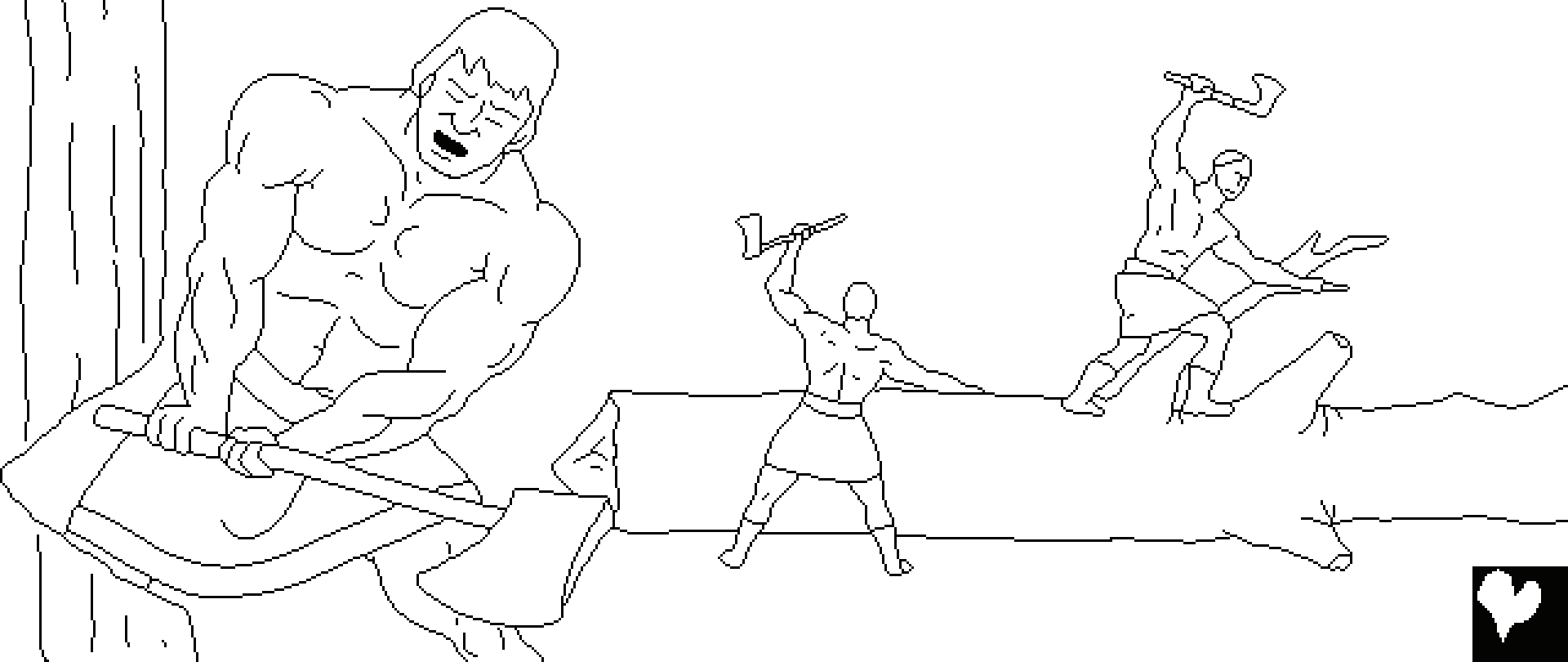
つか

もくざい

ネヘミヤが、町のかべをたてるために使う木材を、

ようい

できるだけたくさん用意するようにとね。



エルサレムに着いたとき、ネヘミヤは、町の役人たちを、あつめて言いました。

「われわれは、今、たいへんなときなのだ。この町は、すっかり、ほろびてしまった。門までやかれてしまったのだから。さあ、みんなで、新しくたてなおそうではないか。」ネヘミヤは、かれらにアルタクセルセス王も、さんせいされていることを言いました。そして、何よりも一ばん大切なこと、つまり、神さまが、味方してくださっていることを伝えました。



ネヘミヤが、神さまを信じ求めるつよい気もちは、人びとに「やろう！」  
という<sup>き</sup>気を、おこさせたにちがいありませんね。かれらは、うなずきあ<sup>い</sup>って言  
いました。「ようし、やろうじゃないか！」ネヘミヤは、それぞれの家<sup>いえ</sup>へ行き、  
かべの<sup>ぶぶん</sup>どの部分を、なおさなければなら<sup>し</sup>ないかを知らせました。





でもね、みんながみんな、かべをたて直そうって、よろこんで言ったわけじゃないんですよ。サンバラテという名の男の人、それにかれの二人の友だちトビヤとゲシエムは、ユダヤ人じゃありませんでした。だから、かべをたて直したり、



もん　　なお  
門をやり直したりした  
くなかったのです。



さて、仕事<sup>しごと</sup>がだんだんすすんでくるのを見て、サンバラテは、とても腹<sup>はら</sup>がたってきました。そこで、かれ<sup>とも</sup>とその友だちは、ユダヤの人をからかいました。トビアは、こんなことを言いましたよ。「やあい、そんなに、うすっぺらいかべの建てものをつくって、どうするんだい？ 小さなキツネがやってきて、こなごなに<sup>し</sup>するだろうさ。」ネヘミヤは、いくらからかわれても、知らんかお。かわりに、ただ祈<sup>いの</sup>りました。だって神さまが、そんなやつらを、さばいてくださるの<sup>かみ</sup> ですから。



ネヘミヤたちを、どんなにからかっても、何の役にもたたないようです。そこで、  
かれらはいっしょに計画をたてました。エルサレムを攻めよう、そして町の中にで  
きるだけ争いをおこそうってね。それを知ったネヘミヤは、「神さま、助けてく  
ださい。」って、また祈りました。そして、  
悪いやつらに、とつぜん攻められないよう、  
昼も夜も、見はりばんを、おくこ  
とにしました。



ひと

ユダヤの人たちは、ほんとうにいっしょうけんめい働きました。それで、

はたら

だんだん、つかれてきたようです。ある人たちは、なんだかこわくなっ

ひと

てきて、こんなことを考えるようになりました。働いている間に、てき

かんが

はたら

あいだ

せ

じぶん

ころ

が攻めてきて、自分たちを殺してしま  
うんじゃないだろうか。それでも、

しごと

ネヘミヤは、この仕事を、とちゅうで

み

やめたりしません。まわりに見はりの

人をおいて、みんなをはげましました。

「わたしたちには、どんなに強いてき

つよ かみ

よりも、もっと強い神さまが、ついてい  
らっしゃるんだ。」こういって、

かみ

みんなに神さまのことを、

思い出させました。



ネヘミヤは、みんなのよい  
てほん  
お手本になろうとしました。

アルタクセルクセス王は、  
おう  
ちょうかん

ネヘミヤをエルサレムの長官にし、  
ひと かね た  
人びとからお金や食べものを、  
とりたてることができるよう  
にしました。でもね、かれは、  
そんなことは、  
いっさいしませんよ。





ひとびと  
ただ、人々といっしょに、  
はたら  
いっしょうけんめい働きました。  
あたら  
かべを、新しくしようってね。  
た か  
食べものを買うときは、  
じぶん かね  
もちろん自分のお金  
をつかいますよ。



やっとのことで、人々は、かべをつくり終わりました。ただし、まん中の門の  
とびらだけ、まだですね。あれあれっ、かべがすっかりできあがったことを聞い  
たサンバラト、トビヤとゲシエム、なにやら悪いことを思いついたようですよ。  
ネヘミヤを、<sup>こま</sup>困らせてやろうって。



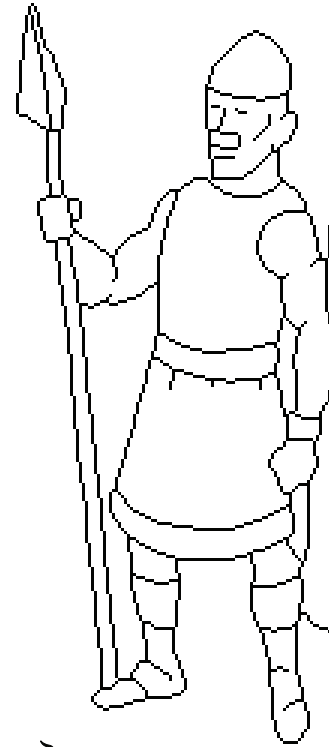
かれらは、ネヘミヤにメッセージをおく<sup>おく</sup>い<sup>い</sup>を送って言いました。「オノというところで、  
あ<sup>あ</sup>会いましょう。」けれども、ネヘミヤは、かれらが自分をだま<sup>だま</sup>して、  
まち<sup>まち</sup>だ<sup>だ</sup>こま<sup>こま</sup>町からつれ出し、困らせようとしていたとわかりました。そこで、  
ネヘミヤは、かれらにこのようにへんじ<sup>か</sup>を、書きました。「わたしは、  
あ<sup>あ</sup>なたたち<sup>いま</sup>に会いにいきません。今、しごと<sup>やす</sup>を休むわけにいかないんです。」





とうとう、かべも、  
とびらもできあがりました。

ネヘミヤは、<sup>まち</sup>町をまもるため、  
<sup>み</sup>あちこちに見はりの人<sup>ひと</sup>  
をおきましたよ。

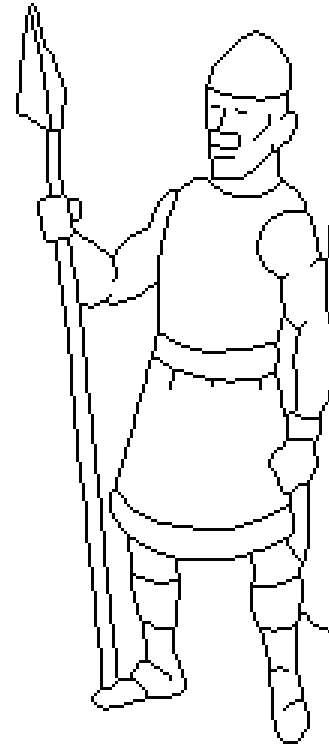


それから、

ネヘミヤはひとつの<sup>つく</sup>きまりを作りました。



それはね、お日さ  
あ ひ  
まが上<sup>あ</sup>がって、空がほん<sup>ひ</sup>と  
うに明るくなるまで、



もん  
門をあけてはならないってきまりです。

よる もん  
夜になると、門をみんなしめてしまい、  
かんぬきが、かけられました。



まち

あんぜん

せかいじゅう

ひとびと

だから、町はもう安全ですね。世界中においやられたユダヤの人々が、  
またエルサレムにもどってきましたよ。ネヘミヤは、うれしくてたまりません。

どうしてって、たくさんのつらいことをのりこえて、神さまがネヘミヤに与え  
られた仕事を、

さいごまでや  
ったのですから。  
そのあとも、ネヘミ  
ヤは、みんなといっ  
しょにエルサレムに  
住みました。「いつも、  
神さまにしたがいま  
しょう。」って言  
って、はげましつ  
づけましたよ。



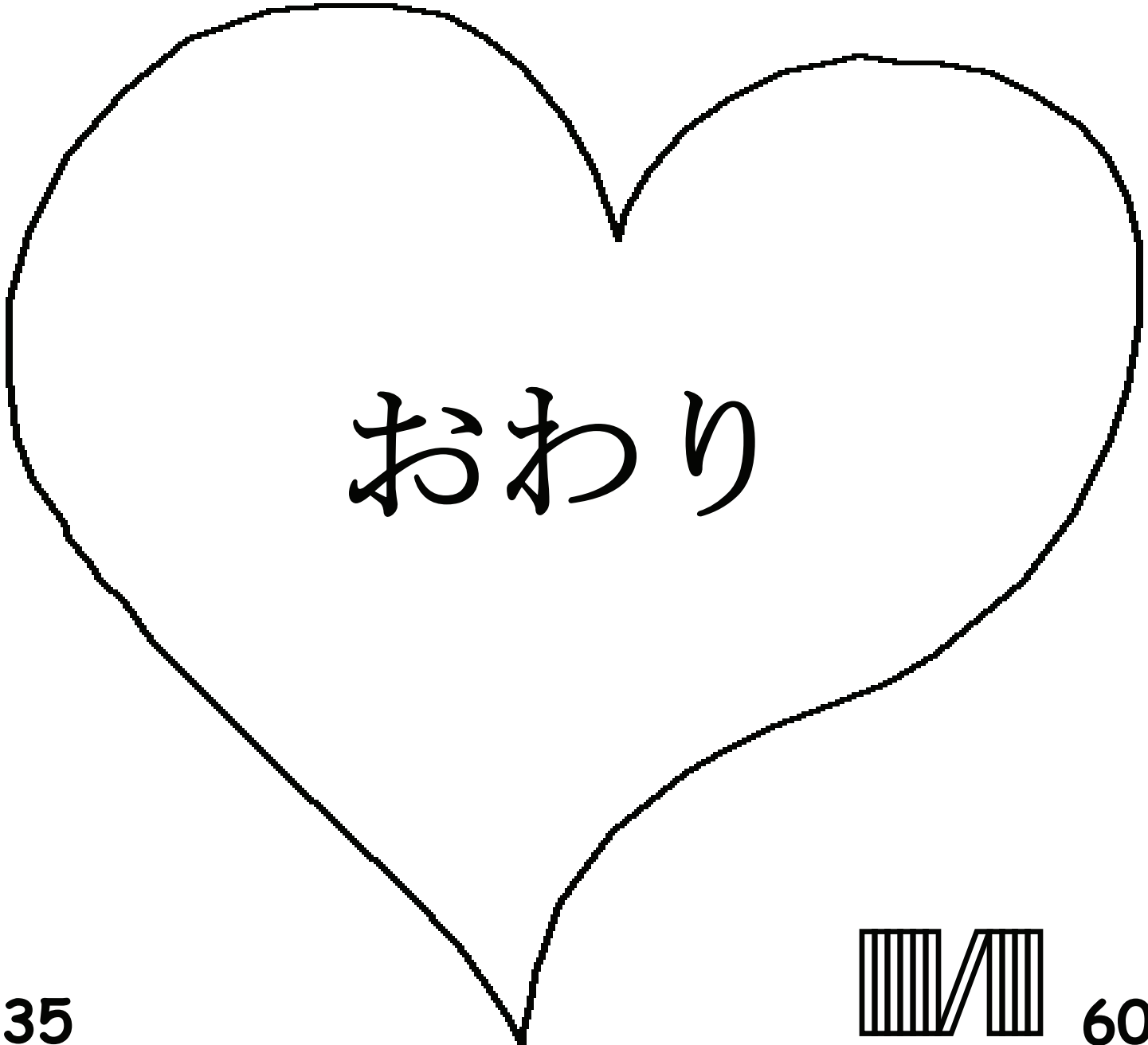
ネヘミヤの <sup>おお</sup>大いなるかべ  
<sup>かみ</sup>神さまの <sup>み</sup>御ことば、<sup>せいしょ</sup>聖書に <sup>しる</sup>記されているおはなしです。

ネヘミヤ <sup>き</sup>記

<sup>み</sup>あなたの <sup>ひら</sup>御ことばが <sup>ひかり</sup>開かれると、<sup>あた</sup>光が与えられます。

<sup>しへん</sup>詩篇 119:130





おわり

35

60



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、  
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、  
おも  
思っています。

かみ わたし かみ  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、思っています。それを、神さま  
は、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

かみ あい ひとり こ  
けれども、神さまは、あなたをとて愛していますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ  
よ おく つみ つみ し  
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども  
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのです。もし、あなたがイエスさ  
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいますなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま  
いま ところ き なか す  
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさ  
まといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。  
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な  
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ  
てくださいました。そして、よみがえって、いま生きて  
いらっしやいます。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あた  
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいる  
ことができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たす  
けてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ  
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

